



## 新年の御挨拶

農業振興センター所長 長沢 秀起

明けましておめでとうございます。

本年が、農業者の皆さまにとって更に充実した年になることをお祈り申し上げます。

近年、農産物価格の低迷や消費の多様化が進み、農業経営は益々難しくなってきました。



また、平成 30 年の減反廃止に向け、神戸の地域特性を活かした水田農業の確立も非常に重要な時期に差しかかってきております。

昨年は、稲作農家には、米の価格低下により厳しい 1 年となり、また、野菜や果樹、花の生産農家にとっても、台風が 2 度も神戸を直撃するなど、非常に心配な 1 年だったと思います。

今年は、皆様とともに神戸農業の飛躍の年となるよう、農業振興センター職員が一丸となってがんばっていききたいと思います。

当センターでは、市内農業の生産振興はもとより、地域農業の担い手の育成、里づくりによる農村地域の活性化・環境保全といった幅広い仕事に携わらせていただいております。

特にこれからは、変化の激しい農業施策についての情報の収集、発信に努めるとともに、本市の恵まれた立地条件、自然環境を活かした農業の振興により一層取り組んで参りたいと考えております

農業所得の減少や高齢化、人口減少が進む中、農業・農村地域の活性化をいかに図っていくかが大きな課題です。そのため、地域の皆さまが策定された里づくり計画の実現や見直しにむけて、皆さまとともに積極的に尽力していく所存です。

また、イノシシやアライグマなど、農業被害だけでなく生活環境の被害にもつながる有害鳥獣対策にもさらに力を入れていきたいと考えております。

最後に、皆様とご家族の方々のこの一年のご健康とご多幸をお祈りするとともに、本市農政に対する一層のご理解とご協力を賜りますようお願いしまして、新年の御挨拶といたします。

## 平成 27 年産米作付けの取組み方針

昨年 12 月 24 日（水）、神戸国際会館において、神戸市農業活性化協議会の平成 26 年度第 2 回総会が開催され、27 年産米の作付けについて、取組み方針と生産数量目標の北、西の配分が決められました。



取組み方針では、『国の制度を活用するだけでなく、農業者の営農意欲を尊重した規模拡大への取組みや、競争力の向上、水田農業の活性化を図る』としています。

生産数量目標については、26 年産米より減少し、本市には前年比 99.4%の配分がありました(県全体では 99.2%)。面積換算では、配分基準単収が 512kg/10a (26 年産は 509kg/10a) となったため、前年比 98.8%でした。これらの目標は、前年度と同じ割合で、北と西の各地域水田農業推進協議会に配分されることになりました。



## 兵庫県農業賞

1 2 月 3 日（水）に、兵庫県公館にて、兵庫県農業賞の表彰が行われました。兵庫県農業賞は農業の経営、技術に優れているとともに多年にわたり農業の振興に貢献されてきた方に贈られる賞です。

神戸市内からは三浦博美さん（西区伊川谷町）と藤本彰宏さん（西区榎谷町）が受賞されました。三浦さんは花壇苗生産の振興と後継者育成への貢献、藤本彰宏さんは肉用牛の大規模経営と集落営農組織の育成に貢献され、それぞれその功績が称えられました。



受賞された三浦さんご夫婦



受賞された藤本さんご夫婦